

## ◎取組の経緯（きっかけ）

農業者の人手不足が課題となっていたところ、福祉側でも就労を含めた活躍の場の創出が課題となっていることがわかった。しかし、町内の農福連携の取組事例は少なく、農業者もイメージしにくいことから、町が主体となりモデルケースを作ることとした。

事業を推進する協議会は、農業サイドの関係者としてJAや農業改良普及センター、福祉サイドの関係者として町内2カ所の就労継続支援B型事業所が参画し、令和3年度に設立した。

現在、各機関・団体と連携し、障がい者による実践研修やマッチング等、直接雇用に向けた取組を実施している。

## 美瑛町農福連携推進協議会の構成メンバー

- ・美瑛町農林課、保健福祉課（事務局）
- ・JAびえい
- ・上川農業改良普及センター大雪支所
- ・社会福祉法人 新生会 美瑛デイセンターすずらん（就労支援B型事業所）
- ・満天の丘 輝星（就労支援B型事業所）
- ・上川総合振興局（オブザーバー）

## ◎取組内容

◆ **ジョブコーチの指導による町ほ場での実践研修**  
農業者のほ場で作業するための技術習得を目的に、町の実践ほ場で農福連携ジョブコーチ(※)が町内の就労支援施設の利用者に対し農作業を指導している。

※農福連携ジョブコーチ：実習生が農作業に係る技術を習得し、生産者に雇用されるまでのサポート役

◆ **農業者・福祉事業者向けの農作業見学会**  
農福連携への理解促進や農業者による雇用を促すための見学会を実施している。

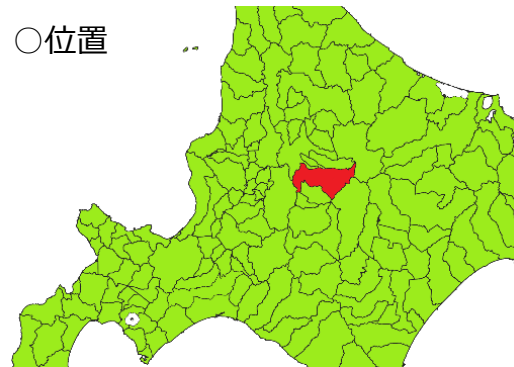
◆ **生産現場派遣実習**  
ジョブコーチ引率のもと、町内の農業者のほ場で実習。受け入れた農業者からは、利用者の真面目な性格や丁寧な作業等に感心する声が多く聞かれる。

◆ **障がい者試験雇用支援**  
事業所又は障がい者と直接、農作業の雇用契約等を結んだ農業者へ町が人件費の一部を支援している。

◆ **その他**  
細かな農作業はできない生活介護等の障がい者向けに体験会を実施し、取組に参加する障がい者の増加を目指している。また、通年での雇用を目指し、冬期間の農作業として農作物加工実習等を実施し、作業内容の拡充に取り組んでいる。

## 地域の概略

○位置

○農業データ  
経営形態  
野菜、小麦、  
豆類等○福祉データ  
B型福祉事業所  
3カ所  
※令和4年12月31日現在

## ◎成果と課題 □：成果、■：課題

- 活動開始（令和3年）当初から様々な障がい者が実習を体験し、現在、4名が常時、派遣実習に参加。トマトに関わるほとんどの作業技術を習得することができた。今後、農業者との直接の雇用を目指す。
- 農業者の関心や理解が深まり、現在までに5戸の農業者が派遣実習を受け入れ、新たに受入を依頼する農業者も数軒あり、担い手確保のための手段の一つとしての農福連携が認知されつつある。
- 農業者の受入依頼に対して派遣できる実習生の数が少なく十分に対応できないため、今後、引きこもり等の働きづらさを感じている方や高齢者が農福連携に参画する可能性を探る。
- 農業者による障がい者の直接雇用の実績が未だ少ないため、作業マニュアル等の補助ツールの作成や支援策やサポート体制の整備等を検討する。



農福連携実習生4名とジョブコーチ(右下)